

## 1. 略歴

2001年3月	東京大学教養学部生命・認知科学科 卒業
2001年4月	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程 入学
2003年3月	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程 修了
2003年4月	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程 進学
2006年3月	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程 修了 博士（学術）取得
2006年4月	東京大学大学院総合文化研究科 日本学術振興会特別研究員（PD）
2007年4月	東京大学総括プロジェクト機構ジェロントロジー寄付研究部門 日本学術振興会特別研究員（PD）
2006年9月	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校バックマン研究所 客員研究員
2009年4月	名古屋大学大学院環境学研究科 講師
2012年10月	名古屋大学大学院環境学研究科 准教授
2017年4月	名古屋大学大学院情報学研究科 准教授
2017年9月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

実験心理学、認知心理学

### b 研究課題

社会的認知とエイジングを主な研究課題としている。社会的認知とは人間の社会行動を支える心の働きの総称であり、他者の感情・思考や性格の推測、自己の行為のコストベネフィット評価や道徳性の判断、相手を信頼して協力するか否かの意思決定など、多様な心理過程が含まれる。一方、エイジングはagingのカタカナ表記で、「年をとること」である。「近頃、年のせいであ…」というぼやきもあれば、「年の功」という言葉もあるように、心の働きには年齢とともに低下する側面も向上する側面もある。中でも社会的認知のエイジングについて検討することで、世代間の交流・理解を促進するヒントが得られないかと考えて研究を進めている。

### c 概要と自己評価

人間は他者の顔つきを手がかりとしてその性格や能力などの特性を推論する傾向があるが、そうした顔特性判断への依存度には個人差が存在する。例えば、顔特性推論の妥当性を信じる程度や顔特性推論を実際に極端に行う程度には個人差があり、両者は正の相関を示す。顔特性推論への高い依存が他者への偏見・差別や自身の対人問題（詐欺被害など）につながる可能性を踏まえると、それがなぜ生じ、どのような作用を持つかの解明は重要な研究課題である。そこで、顔特性推論の個人差がどのような特徴をもち、その背後にどのようなメカニズムがあるかを明らかにすることを目指して研究を進めている。最近の研究では、顔画像の印象をSemantic Differential 尺度上で評価したデータから顔特性推論の極端さを定量化する方法の妥当性を検証する調査を実施し、この測定法が社会的望ましさと極端反応傾向などのバイアスに対して頑健であることを明らかにした。また、顔から種々の特性を判断できると信じる人は実際にそうした判断に長けているのかを問う研究も実施し、結果として、そうした信念の高い人による顔特性推論は正確であるというよりもステレオタイプ的であることが示唆された。以上に関連する研究成果は既に国内外の学会で発表され、国際誌に論文も掲載されており、研究は順調に進んでいる。

### d 主要業績

#### (1) 著書

共著、鈴木敦命、(日本感情心理学会 企画、内山伊知郎 監修)『感情心理学ハンドブック』、13章2節 感情認知の神経基盤、2019

共著、鈴木敦命、(山口真美・金沢創・河原純一郎 編)『公認心理師の基礎と実践 6: 心理学実験』、第2章 実験計画、遠見書房、2019.10

#### (2) 論文

Suzuki, A., 「Persistent reliance on facial appearance among older adults when judging someone's trustworthiness」、『Journals of Gerontology Series B: Psychological Sciences and Social Sciences』、73 (4)、573-583 頁、2018.5

- Tu, Y.-Z., Lin, D.-W., Suzuki, A., & Goh, J. O. S., 「East Asian young and older adult perceptions of emotional faces from an age- and sex-fair East Asian facial expression database」, 『Frontiers in Psychology』, 9, Article no. 2358 頁, 2018.11
- Suzuki, A., Tsukamoto, S., & Takahashi, Y., 「Faces tell everything in a just and biologically determined world: Lay theories behind face reading」, 『Social Psychological and Personality Science』, 10 (1), 62-72 頁, 2019.1
- Suzuki, A., Ueno, M., Ishikawa, K., Kobayashi, A., Okubo, M., & Nakai, T., 「Age-related differences in the activation of the mentalizing- and reward-related brain regions during the learning of others' true trustworthiness」, 『Neurobiology of Aging』, 73 (1), 1-8 頁, 2019.1
- 鈴木敦命, 「人相を観る人の心理」, 『文化交流研究』, 32, 45-52 頁, 2019.3
- 服部友里, 渡邊伸行, 鈴木敦命, 「魅力度の類似した顔のグループに対するチャリーダー効果—観察者の性別と顔の性別の影響」, 『基礎心理学研究』, 38 (1), 13-25, 2019.9

### (3) 学会発表

- 国際, Suzuki, A., Ueno, M., Ishikawa, K., Kobayashi, A., Okubo, M., & Nakai, T., 「Age-related decline in neural responses to expectancy violation about someone's trustworthiness」, Cognitive Aging Conference 2018, Atlanta, GA, 2018.5.5
- 国内, 鈴木敦命, 「他者の信頼性の知覚と学習: 高齢者と若年者の比較」, 玉川大学 脳科学研究所 社会神経科学共同研究拠点研究会 「世界や社会と相互作用して生きるヒトや動物の視覚—生理学、心理物理学、計算論」, 玉川大学, 2018.9.14
- 国内, 鈴木敦命, 上野美果, 石川健太, 小林晃洋, 大久保街亜, 中井敏晴, 「信頼性の第一印象に反する情報への神経応答の年齢関連差」, 日本心理学会第 82 回大会, 仙台国際センター, 2018.9.26
- 国内, 鈴木敦命, 「顔から特性を判断する傾向の個人差」, 日本感情心理学会第 26 回大会, 東洋大学, 2018.11.10
- 国際, Suzuki, A., Ueno, M., Ishikawa, K., Kobayashi, A., Okubo, M., & Nakai, T., 「Dampening of reward-related brain activity in older adults while processing impression-incongruent information regarding the trustworthiness of others」, The 3rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Chapter of ISMRM, Nagoya, Japan, 2018.12.22
- 国内, Suzuki, A., 「Cross-age similarities and differences in trustworthiness judgment」, 3rd International Smart Aging and Brain Seminar, Tohoku University, 2019.2.12
- 国際, Suzuki, A., Tsukamoto, S., & Takahashi, Y., 「Evidence for a general tendency to make extreme face-based judgments across traits」, International Convention of Psychological Science 2019, Paris, France, 2019.3.8
- 国内, 鈴木敦命, 「科学的知識と説明責任は顔にもとづく信頼性判断を抑制できるか」, 日本感情心理学会第 27 回大会, 東海学園大学, 2019.6.30
- 国際, Suzuki, A., Ueno, M., Ishikawa, K., Kobayashi, A., Okubo, M., & Nakai, T., 「Limited metacognitive awareness to the accuracy of face-based trait inference」, 60th Annual Meeting of the Psychonomic Society, Montréal, Québec, Canada, 2019.11.16

## 3. 主な社会活動

### (1) 学会

- 国内, 日本心理学会, 『Japanese Psychological Research』 編集委員, 2019.11～
- 国内, 日本基礎心理学会, 『基礎心理学研究』 編集委員, 2018.4～
- 国内, 日本感情心理学会, 『感情心理学研究』 副編集委員長, 2018.4～2019.6